

令和6年度 港湾防災防止協会無災害記録表彰
249事業場（うち第5種は6事業場）受賞

港湾防災防止協会においては、全国安全週間及び港湾労働安全強調期間初日の7月1日付けをもって当協会無災害記録表彰規程に基づき、26回目（令和6年度）の無災害記録表彰を行いました。

の一般社団法人全沖縄検数協会の269万1千時間でした。（一社）全沖縄検数協会から受賞の感想などをお聞きしていますので、8頁をご覧ください。（さい。）

無災害記録の樹立は、一步一步着実に
 無災害記録表彰制度は、第1種から第2種へ、第2種から第3種へと段階的に上位表彰へと進んでいく制度であり、飛び級表彰は行われません。安全パトロール等により職場の危険を発見し、災害防止対策を実施するなど、危険、有害要因を排除して、無災害記録の樹立を一步一步着実に進めましょう。

**危険に気付くあなたの目そして
 摘み取る危険の芽 みんなで
 築く職場の安全**

これは、今年度の全国安全週間及び港湾労働安全強調期間のスローガンです。全会員事業場が引き続き安全衛生生活動に取り組まれ無災害記録を伸ばされることを祈念しております。
ご安全に！

この「港湾防災防止協会無災害記録表彰」は、会員事業場が毎年末時点で同表彰規程に定める無災害期間または無災害延労働時間を記録している場合に、同事業場からの報告により、支部長が上申し、総支部長の審査・推薦に基づき行われます。
 今年度は、各総支部長から推薦された249事業場が受賞されました。今年度から表彰制度を見直し、最高位の第5種無災害記録表彰を受賞された事業場が無災害記録に再出発の取組みを実施し第1種無災害記録を達成した場合、プレミアム2の付いた第1種無災害記録表彰を行うこととしましたが、このプレミアム2の第1種表彰が164事業場ありました。
 また、昨年までに第4種無災害記録を樹立された事業場のうち、引き続き記録を伸ばし、第5種を受賞されたのは6事業場でした。
 今回の第5種無災害記録の最長時間を記録した事業場は、沖縄総支部



第五種副賞（安全盾仕様）

表彰区分及び年度別港湾防災防止協会無災害記録表彰件数

年度	区分	1種	2種	3種	4種	5種	プレミアム2 1種	合計
17年度		54	38	42	30	34		198
18年度		42	40	32	35	34		183
19年度		55	30	35	26	34		180
20年度		54	39	26	30	14		163
21年度		56	45	28	18	32		179
22年度		64	52	37	25	17		195
23年度		43	43	48	33	18		185
24年度		44	31	39	36	30		180
25年度		38	36	30	33	31		168
26年度		38	31	28	22	30		149
27年度		40	27	24	24	19		134
28年度		38	27	20	25	17		127
29年度		32	29	21	16	20		118
30年度		22	27	22	17	17		105
元年度		21	21	16	16	21		95
2年度		32	14	19	16	12		93
3年度		23	13	11	19	11		77
4年度		21	32	13	12	12		90
5年度		21	19	22	9	11		82
6年度		29	16	13	21	6	164	249

※平成11年度～16年度は、省略しました。

令和6年度
無災害記録表彰第3種・第4種・第5種受賞事業場のご紹介

今年度における無災害記録表彰受賞の事業場のうち、第3種・第4種・第5種の無災害記録達成となりました事業場をご紹介します。無災害記録表彰の受賞、おめでとうございます。

第3種無災害記録表彰受賞

事業場名	所属総支部	無災害時間
東北汽船港運株式会社	東北	371万1千時間
富士運輸株式会社	日本海	89万1千時間
千葉共同サイロ株式会社	千葉	127万5千時間
株式会社ケンコー	千葉	13万7千時間
宇徳港運株式会社	神奈川	195万2千時間
有限会社三和企業	神奈川	8万8千時間
京浜船貨整備株式会社	神奈川	31万6千時間
三田港運株式会社	神奈川	37万6千時間
山九株式会社 首都圏DC支店	神奈川	105万8千時間
二和興業株式会社	兵庫県	15万3千時間
日本包装工事株式会社	兵庫県	34万6千時間
広島荷役株式会社	中国	85万2千時間
株式会社シーゲートコーポレーション	中国	55万0千時間

計13事業場

第4種無災害記録表彰受賞

事業場名	所属総支部	無災害時間
直江津海陸運送株式会社	日本海	203万5千時間
中央航運株式会社 船橋営業所	千葉	37万0千時間

計21事業場

株式会社ホンマ 東京支店

東京国際埠頭株式会社 横浜支店

株式会社みなと輸送 川崎営業所

株式会社シンケン

株式会社アークス

株式会社ウインクスジャパン

加藤梱包株式会社

加藤梱包株式会社 神戸支店

共栄梱包株式会社

昌和工業株式会社

株式会社セイコー

株式会社ミツカネ

株式会社三宅商会

株式会社ワテック

日本通運株式会社 岡山支店 宇野海運課

NX備通株式会社 国際事業部 国際輸送支店

日本通運株式会社 福山支店 港運課

福岡倉庫株式会社

日鉄物流株式会社 九州支店 港運部 形鋼・電磁物流部

東京 253万7千時間

神奈川 82万4千時間

神奈川 9万4千時間

東海 21万2千時間

兵庫県 8万5千時間

兵庫県 17万1千時間

兵庫県 30万9千時間

兵庫県 14万3千時間

兵庫県 42万5千時間

兵庫県 11万1千時間

兵庫県 23万4千時間

兵庫県 8万6千時間

兵庫県 38万6千土官

兵庫県 21万0千時間

中国 58万2千時間

中国 53万7千時間

中国 304万5千時間

九州 37万3千時間

九州 227万4千時間

第5種無災害記録表彰受賞

事業場名	所属総支部	無災害時間
大東港運株式会社 京葉支店	千葉	62万8千時間
株式会社笹田組 東京支店	東京	116万4千時間
関西梱包株式会社	兵庫県	24万6千時間
丸菱運輸株式会社 はしけ部門	兵庫県	6万0千時間
大成海運株式会社 現業部	四国	32万9千時間
一般社団法人全沖縄検数協会	沖縄	269万1千時間

計6事業場

無災害記録表彰…最高位「第5種」の最長事業場からの報告

一般社団法人全沖縄検数協会(検数・検量部門で無災害時間が269万1千時間)

当協会(代表理事会長 平良優、従業員数130名)は、1970年3月に貨物流通における総合的検査機関として、貨物の検数・検量・検査事業並びに物流の調査・研究・その他これらに関連する事業を行うことを目的に設立され、那覇港・平良港・石垣港において事業を展開しております。

検数・検量事業はお客様である船社や代理店・港湾運送事業者等から依頼を受け、検数員や検量員が各配置先において業務を行うことから、先ずは「依頼者にご迷惑をおかけしないこと」を最重要事項とし、「不安全行動、しない・させない、ゼロ災職場」をキャッチフレーズに日々安全作業に努めております。

我が社の安全衛生活動の取組みですが、月に一度、会社側と従業員が現場の安全衛生パトロールを実施し、その後の安全衛生委員会では産業医の意見を交えながら、危険要因や課題点などを速やかに協議し改善に向け対策を行っております。また安全パトロール時は「服装の乱れ・不安全行動は無い



か・危険な芽は無いかな」などリスクの発見と安全管理を保っているかを巡視しています。更には職員一人ひとりに声掛けを行い安全に対する意識向上に努めております。他にも日頃から各職制が現場で安全点検を行い「指導改善報告書」に好事例や指導改善点を記入し、それを役員と職制に回覧して情報を共有しております。

無災害を続けていく中で苦労したことは、作業を依頼する関係会社が現場毎に異なるため、検数員等に危険要因が存在しているも我々だけの判断ではそれを改善することができず、その会社と相談し、作業協力を頂きながら改善できたことです。一例をあげると、作業現場が車両やフォークリフトが行き交う最も危険な場所、検数員等の施検場所が指定された場所だと危険と判断し、車両の停止位置や動線等を関



係会社と協議しながら変更にご協力していただいた結果、リスク低減を図ることができたことです。

次に安全衛生教育では、新入社員教育や熱中症予防対策、関係会社が行っているフォークリフト死角検証やフルハーネス講習等に積極的に参加し安全教育を行っています。また、事務所内では従業員に対し出勤時に健康チェックシート(熱や倦怠感はないかなど)を記入させ、職制が確認し従業員の体調管理に取組んでおります。

更に本船作業及び沿岸作業前に関係会社のツールボックスミーティングに参加し、作業内容の確認、危険ポイントの確認、安全に作業を行うための注意事項等を確認しております。

高温多湿の沖縄県では熱中症予防対策は欠かせません。作業前のミネラル補給粉末の摂取や空調服の貸与、検数員等の詰所に電源が無い場合はポータブル電源を活用した送風機の設置、断熱材や日光・雨などを塞ぐ庇を設置す



るなど室内温度を下げる工夫も熱中症予防対策として行っております。

今回名誉ある無災害記録表彰「第5種」の受賞は、長年にわたり安全管理体制を整えた先輩方の活動と共に関係会社の協力があった受賞できたことだと役員一同とても嬉しく思います。

各作業現場においては関係会社も違い、またその作業内容も変わってきます。港湾労働災害防止協会沖縄総支部安全委員の安全指導を中心に各関係会社は、現場で働く全ての従業員の安全を守る強い仲間意識があり、無災害が少しずつ積み重なってきました。弊会だけの力ではできないこともありました。皆さまの力で受賞できたことに感謝いたします。

これからも益々精進し、無災害を一日一日積み重ね「無災害の通過点」が続けて行けるように努力して参ります。「安全をすべてに優先」することを基本に協会トップ・職制・従業員が率先して職場の安全衛生を確保し、働き

やすい環境を整え、そして従業員一人ひとりが安全意識の向上を図り、より安全安心できる職場環境を目指していきます。

ご安全に!

安全衛生対策室長

玉城修也